

大学の世界展開力強化事業（平成 25 年度採択）事後評価結果の総括

平成 31 年 3 月 6 日

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

本事業において平成 25 年度に採択し 5 年の補助期間を終了した 7 事業について、事後評価を実施した。結果は、S（「事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された」）が 2 件（全体の 29%）、A（「事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された」）が 3 件（同 43%）、A⁻（「一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は達成された」）が 1 件（同 14%）、B（「事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。」）が 1 件（同 14%）であった。なお、本評価においては A が標準的な評定である。この結果から、7 事業は当初の計画に沿って目的を概ね実現し、期待された成果を挙げたものと評価出来る。

平成 25 年度の事業開始から補助期間終了時点（平成 29 年度末）までに全 7 事業において交流した学生数は、派遣された日本人学生が目標 828 名に対して実績 761 名、受け入れた外国人学生が目標 744 名に対して実績 802 名であり、派遣学生数は目標を下回ったものの、概ね目標を達成している。

また、AIMS プログラムにおける英語によるコース数及び授業科目数は、7 事業合計で 28 コース・1,580 科目が開設されており、目標（それぞれ 27 コース・1,129 科目）を上回る結果となった。

今回の評価により得られた主な取組内容は、以下のとおりである。

- 多くの事業で、AIMS プログラムの枠組みに沿った単位互換や単位相互認定、成績管理等が行われ、質の保証を伴った交流プログラムが積極的に実施された。
- 受入・派遣学生それぞれに対する学修支援や生活サポートが充実しているプログラムが多く、共に学び助け合うバディ制度や、現地の伝統・文化や語学に関する講座の提供といった支援体制も含め、多角的かつ持続的に行われる環境整備が定着している。
- 各大学では、全体として中間評価時に当委員会が付した意見や指摘の内容を真摯に受け止め、事業内容の改善・向上に努めたものと言える。また、補助期間終了後の持続的な取組の推進に向け、学内の既存の枠組みの活用や大学独自資金の創設、学外資金の獲得など、多くの事業で更なる事業計画や予算措置が講じられており、引き続き本事業の成果を活かした活動が行われていくことが期待される。

5 年という限られた補助期間において、個々の大学のグローバル展開力の強化に対応したきめ細やかな体制基盤の確立と、ニーズを踏まえた事業展開によって得られた実績や経験を積み上げることで着実に成果を挙げた点は、特筆に値する。引き続き、各大学がこれまでの取組を発展的に継続し、グローバルに活躍できる人材の登用や養成に寄与していくことが期待される。

大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）事後評価結果一覧

整理番号	大学名	設置区分	事業名	総括評価
1	○北海道大学、 東京大学、 酪農学園大学	国立	日本とタイの獣医学教育連携：アジアの健全な発展のために	B
2	筑波大学	国立	アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育プログラム	S
3	○東京農工大学、 茨城大学、 首都大学東京	国立	ASEAN発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成	S
4	広島大学	国立	アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材教育プログラム	A
5	上智大学	私立	多様性の調和を目指す学融合型の人間開発教育プログラム	A
6	早稲田大学	私立	AIMS7 多言語・多文化共生プログラム	A
7	立命館大学	私立	国際PBLによるイノベータ育成プログラム	A ⁻

（参考）総括評価の基準

評価	評 語
S	事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
A※	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
B	事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
C	事業計画を下回っており、事業目的はあまり実現されていない。
D	事業計画を大きく下回っており、事業目的はほとんど実現されていない。

※ A評価のうち、一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断されるものについてはA⁻とすることができる。